

**業況DIの現況判断は▲5、先行きは4p悪化の▲9を見込む
～ 飲食業や観光関連業などで人手不足が顕著に ～**

【今回調査の結果概要】

- 業況DIの現況判断は▲5で、先行きは4ポイント（以下、p）悪化の▲9。
- 項目別では売上高DIの現況判断が▲10、営業利益DIは▲15となった。先行きは、売上高DIが3p改善の▲7、営業利益DIは8p悪化の▲23。
- 労働力DIの現況判断は▲35、先行きは5p低下の▲40で人手不足が更に強まる見通しとなっている。
- 夏季賞与の支給を予定している事業所は54.5%。一人当たり支給額では、「増加する」が19.6%で「減少する」の9.8%を上回った。

(注) DIについて

業況判断、売上及び利益の増減、設備、労働力、在庫の過不足などについて、以下の式により、各項目のDIを算出。

$$DI = (\text{「良い」、「増加」、「上昇」、「過剰」とする回答企業の構成比}) - (\text{「悪い」、「減少」、「下落」、「不足」とする回答企業の構成比})$$

例) 業況が良いと回答した企業が15%、普通と回答した企業が64%、悪いと回答した企業が21%
⇒ 15 (良いと回答) - 21 (悪いと回答) で 業況判断DIは▲6 (マイナス6)

【調査の対象・期間・方法等】

1. 調査対象企業	人吉市内会員事業所 303 事業所
2. 調査時期	平成 29 年 6 月 26 日 (月) ～7 月 14 日 (金)
3. 対象期間	平成 29 年 4 月～6 月 (平成 29 年度 第 1 四半期)
4. 回答状況	134 事業所 (回収率 44.2%)

【回答企業数と構成比】

業 種	企業数 (社)	構成比 (%)	業 種	企業数 (社)	構成比 (%)
製造業	21	15.7	卸・小売業	41	30.6
建設業	26	19.4	飲食業	9	6.7
観光関連業	13	9.7	サービス業	24	17.9
			全 体	134	100.0

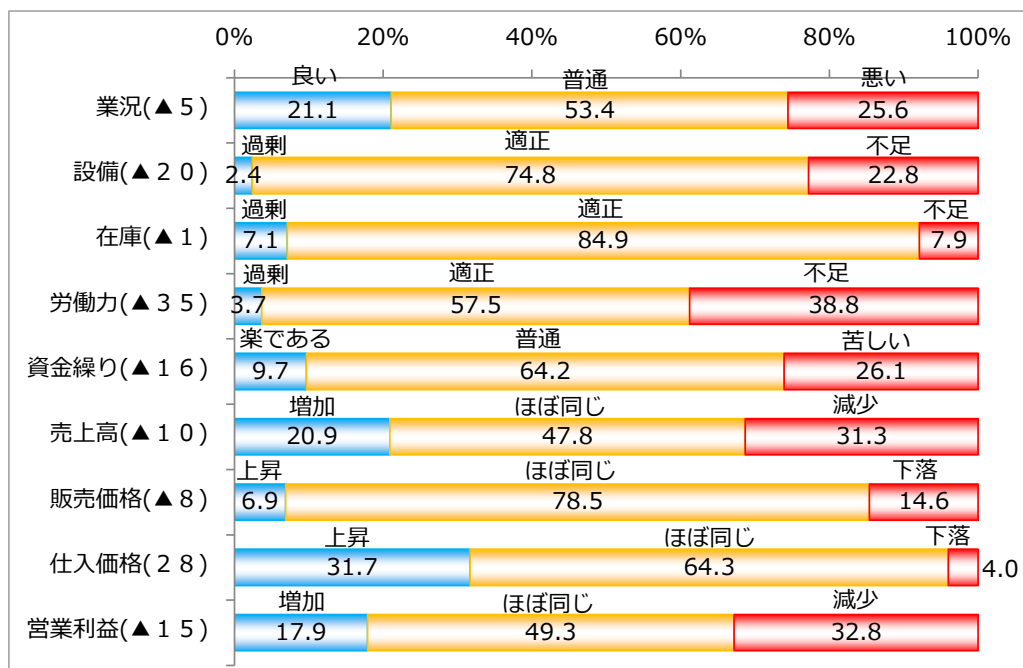
1. 概況

各項目の現況判断の回答結果は図表1のとおりである。

業況は「普通」という回答が53.4%で最も多く、「良い」が21.1%、「悪い」が25.6%となっており、業況DIは▲5となっている。

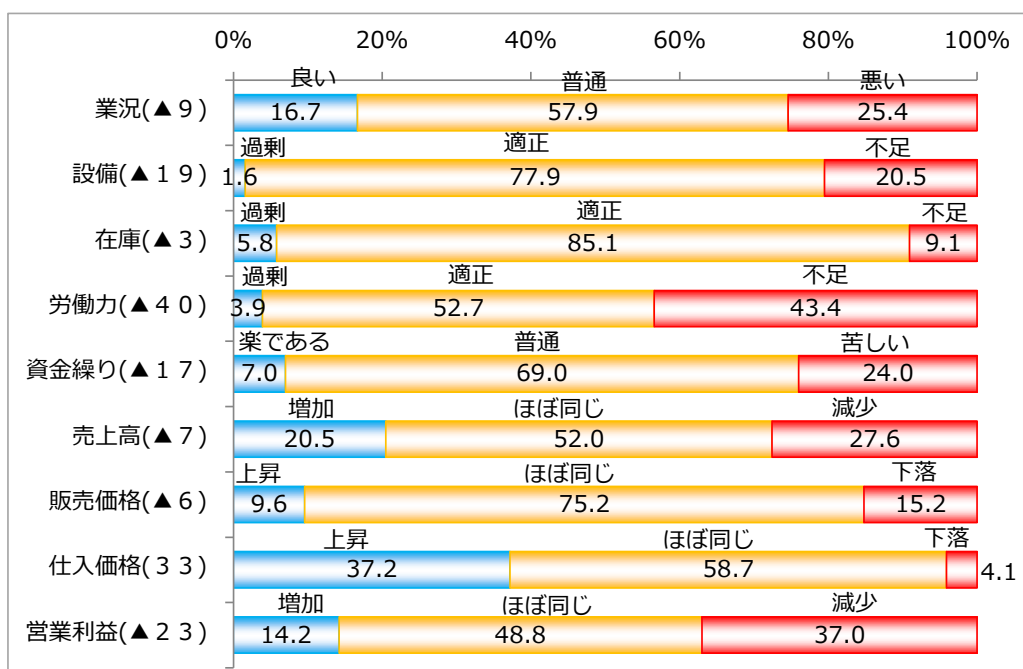
項目別にみると、「労働力」では「不足」という回答が約4割にのぼっており、人手不足感の強さがうかがえるほか、「仕入価格」では「上昇」という回答が3割を超えている。

図表1 項目別の現況判断



※項目名の () 内の数字はそれぞれの調査項目のDI

(参考) 項目別の先行き判断



2. 調査項目ごとの状況

(1) 業況D I

業況D Iの現況判断は▲5で、業種別にみると「建設業」が+15で最も高く、以下、「観光関連業」(+8)、「飲食業」(±0)と続いている。

先行きは4p悪化の▲9で、業種別では「観光関連業」や「飲食業」で改善し、残りの4業種で悪化している。

図表2 業況D I

	平成29年 4~6月期 (今回調査)		平成29年 7~9月期 (先行き)	
		前回調査比		今回調査比
全体	▲5	—	▲9	↓
製造業	▲24	—	▲25	↓
建設業	15	—	0	↓
観光関連業	8	—	15	↑
卸・小売業	▲12	—	▲22	↓
飲食業	0	—	25	↑
サービス業	▲4	—	▲9	↓

(2) 売上高D I

売上高D Iの現況判断は▲10で、業種別にみると「飲食業」が+10で最も高く、「建設業」が±0で続いている。

先行きは3p改善の▲7で、業種別では「観光関連業」と「飲食業」、「製造業」、「サービス業」で改善し、残りの2業種で悪化している。

図表3 売上高D I

	平成29年 4~6月期 (今回調査)		平成29年 7~9月期 (先行き)	
		前回調査比		今回調査比
全体	▲10	—	▲7	↑
製造業	▲24	—	▲15	↑
建設業	0	—	▲8	↓
観光関連業	▲8	—	8	↑
卸・小売業	▲20	—	▲21	↓
飲食業	11	—	25	↑
サービス業	▲4	—	4	↑

(3) 営業利益D I

営業利益D Iの現況判断は▲15で、業種別にみると「サービス業」の▲8が最も高く、以下、「卸・小売業」(▲10)、「飲食業」(▲11)と続いている。

先行きは8p悪化の▲23で、業種別では「観光関連業」と「飲食業」で改善し、残りの4業種で悪化している。

図表4 営業利益D I

	平成29年 4~6月期 (今回調査)		平成29年 7~9月期 (先行き)	
		前回調査比		今回調査比
全体	▲15	—	▲23	↓
製造業	▲24	—	▲26	↓
建設業	▲15	—	▲28	↓
観光関連業	▲31	—	▲23	↑
卸・小売業	▲10	—	▲21	↓
飲食業	▲11	—	0	↑
サービス業	▲8	—	▲26	↓

(4) 労働力D I

労働力D Iの現況判断は▲35で、業種別にみると「飲食業」の▲67が最も高く、以下、「観光関連業」(▲54)、「サービス業」(▲50)と続いている。

先行きは5p低下の▲40で、業種別では「製造業」と「観光関連業」、「サービス業」、「建設業」で現況判断よりも人手不足感が強まっており、残りの2業種で弱まっている。

図表5 労働力D I

	平成29年 4~6月期 (今回調査)		平成29年 7~9月期 (先行き)	
		前回調査比		今回調査比
全体	▲35	—	▲40	↓
製造業	▲10	—	▲25	↓
建設業	▲23	—	▲28	↓
観光関連業	▲54	—	▲62	↓
卸・小売業	▲34	—	▲33	↑
飲食業	▲67	—	▲50	↑
サービス業	▲50	—	▲58	↓

3. 地域経済や業界動向等に関する自由記述

(1) 人吉市の地域経済について

コメント	業種
人吉・球磨での工事について期待できない。鹿児島県霧島市でのホテル新設において基礎型枠工事を受注。	建設業
JRかわせみ・やませみ、SL人吉等の観光列車の宣伝・運行によりお客様が増加している。	観光関連業
人吉・球磨地域は少子高齢化の影響をもろに受けている形となっている。市外・県外に販売を広げる事が大事。	卸・小売業
平日の人通りが町全体に少なく、週末に何とか集客をする事が続いている。若い人の客単価が下がっている。	飲食業
旅行販売等、熊本市内が良くなっていて、地方（人吉）も引っ張られる状態が続いている。	サービス業

(2) 業界動向等

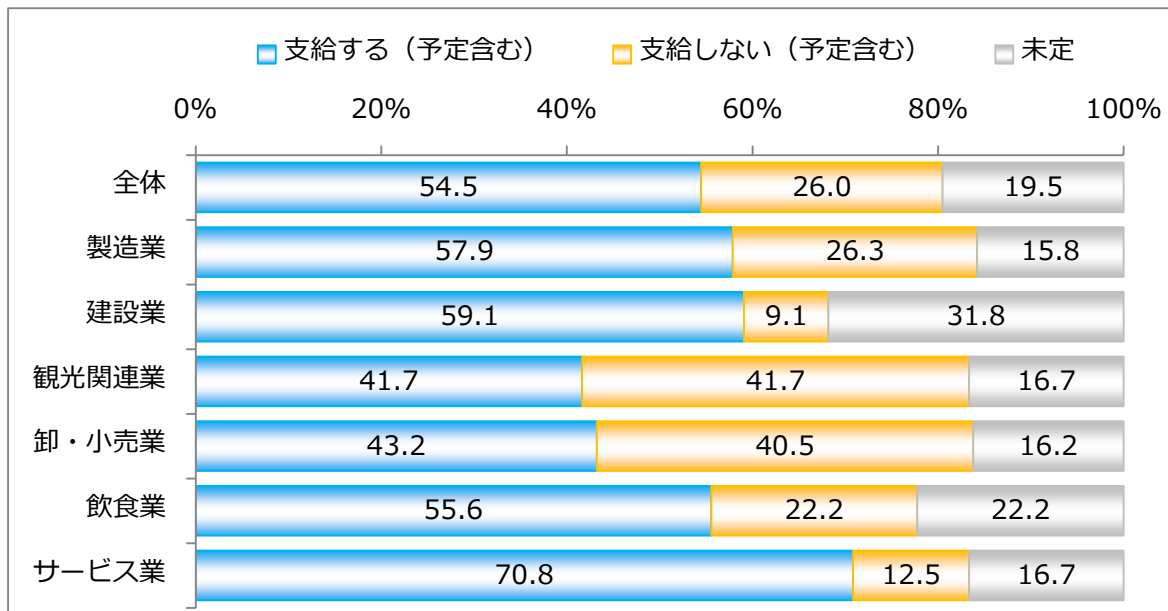
コメント	業種
昨年の熊本地震以降ラフティング業界（会社）が低迷している。	観光関連業
建設市場については依然として、冷やかな状況にある。	建設業
仕事は増えて遠方からも注文が来ているが、交通費がかさむため断る事が何度かあった。	建設業
6月からの酒税法改正により未だ対策が見えない状態。地元対象の商売は人口の減少もあって、先行きの見当がつかない。	卸・小売業
去年は「ふっこう割」等で観光客の増加による売り上げが見込めたが、今年は今の所分からない。	卸・小売業
介護関連保険事業所は処遇改善手当が付き、職員は収入がややUPしているが、事業所そのものは収入減の状況。サービスの質の低下や閉鎖する事業所が、増えることを懸念。	サービス業
賃貸については、アパート・マンションの供給過剰・大手ポータルサイトの影響から現況売り上げは減少する可能性が大きいと判断する。	サービス業
受託生産品受注好調。9月に新ラインを増設し、10月から稼働開始予定。自社のオリジナル製品の販売が好調	製造業
ネット売りが増えたせいで、当店の売上は減少している。	卸・小売業
固定客が高齢化で減少する一方、新規のお客様が中々増えない。	卸・小売業
全般的に人手不足であるが、何とかやりくりしている。	卸・小売業
人手不足が深刻	サービス業

4. 特別テーマ「夏季賞与の支給状況について」

(1) 夏季賞与の支給予定の有無

夏季賞与の支給予定の有無については、「支給する」が54.5%で、「支給しない」が26.0%であった。業種別では、「サービス業」で支給予定が7割を超えているほか、「建設業」や「製造業」などでも6割近くの事業所が支給を予定している。

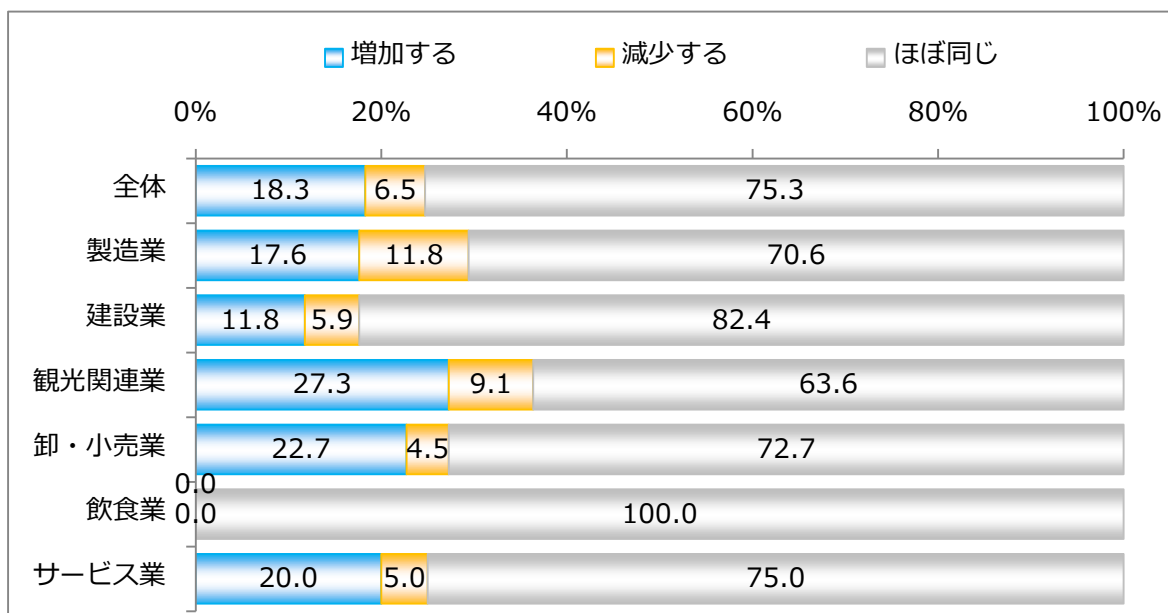
図表6 夏季賞与の支給予定の有無



(2) 夏季賞与の支給人数

夏季賞与の支給人数については、「増加する」が18.3%で、「減少する」が6.5%であった。業種別では、「観光関連業」で増加する事業所が27.3%と最も高く、以下、「卸・小売業」(22.7%)、「サービス業」(20.0%)と続いている。

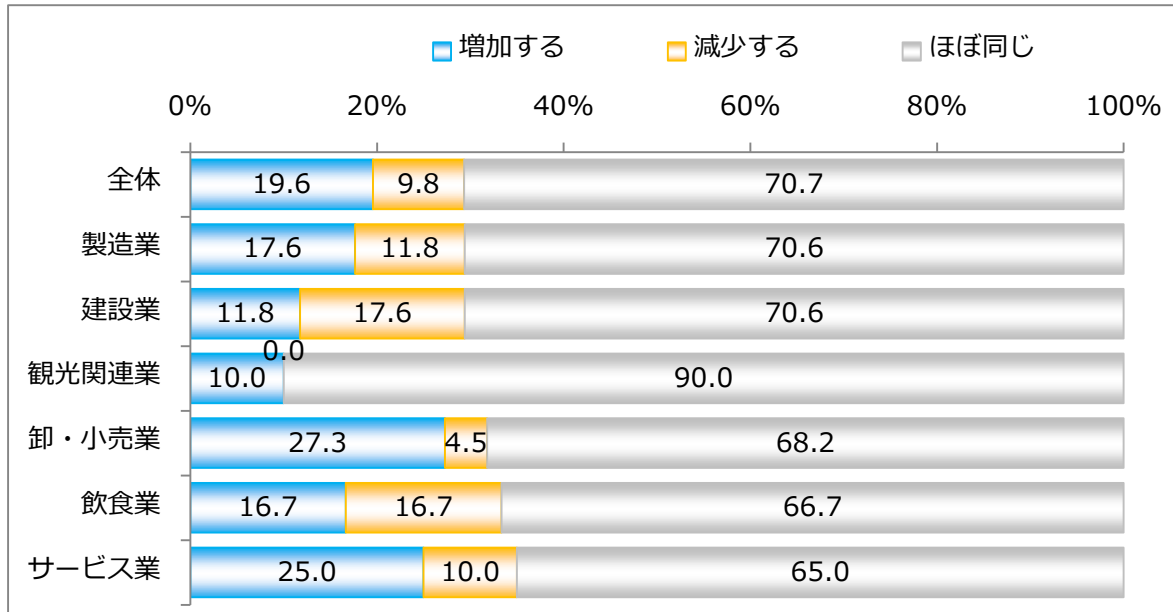
図表7 夏季賞与の支給人数



(3) 夏季賞与の一人当たりの支給額

夏季賞与の一人当たり支給額については、「増加する」が19.6%で、「減少する」が9.8%であった。業種別では、「卸・小売業」で増加する事業所が27.3%と最も高く、以下、「サービス業」(25.0%)、「製造業」(17.6%)と続いている。

図表8 夏季賞与の一人当たりの支給額



以上